









写真図版 24 10A 区 035SZ





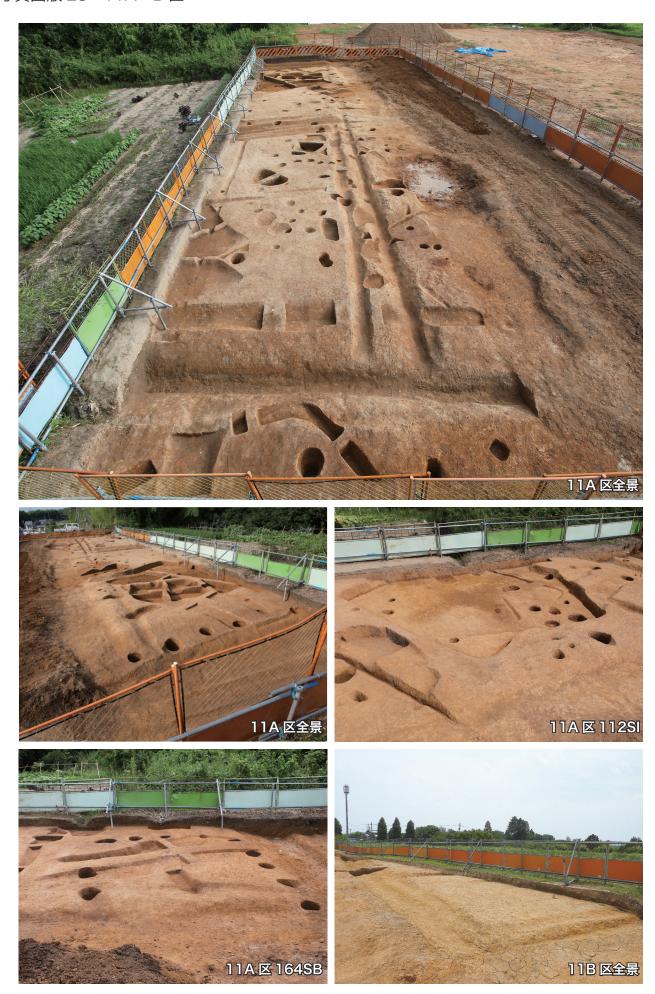










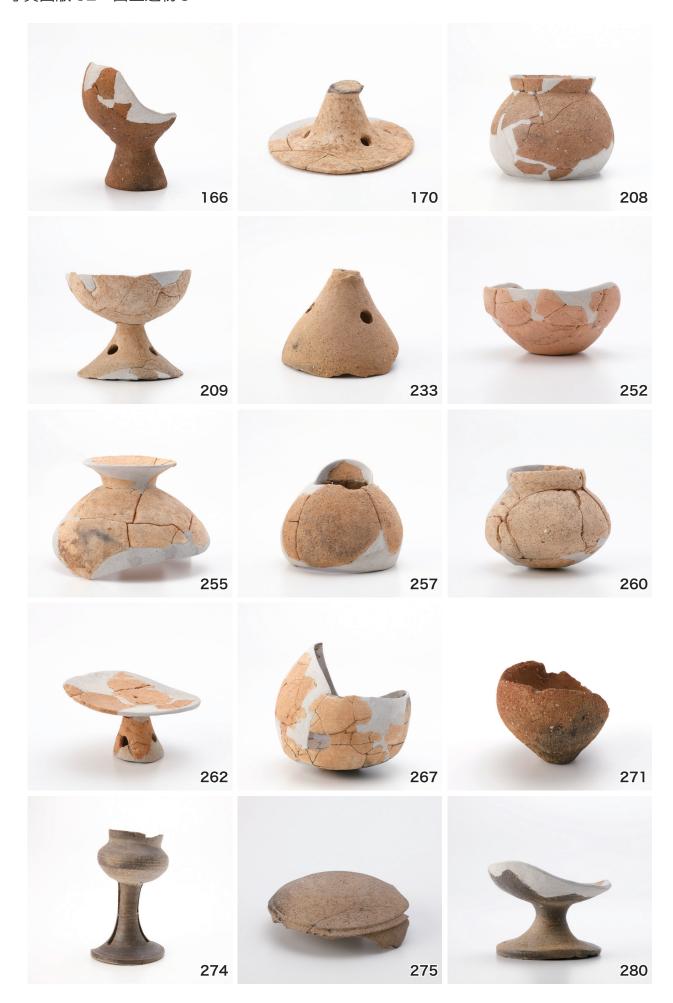


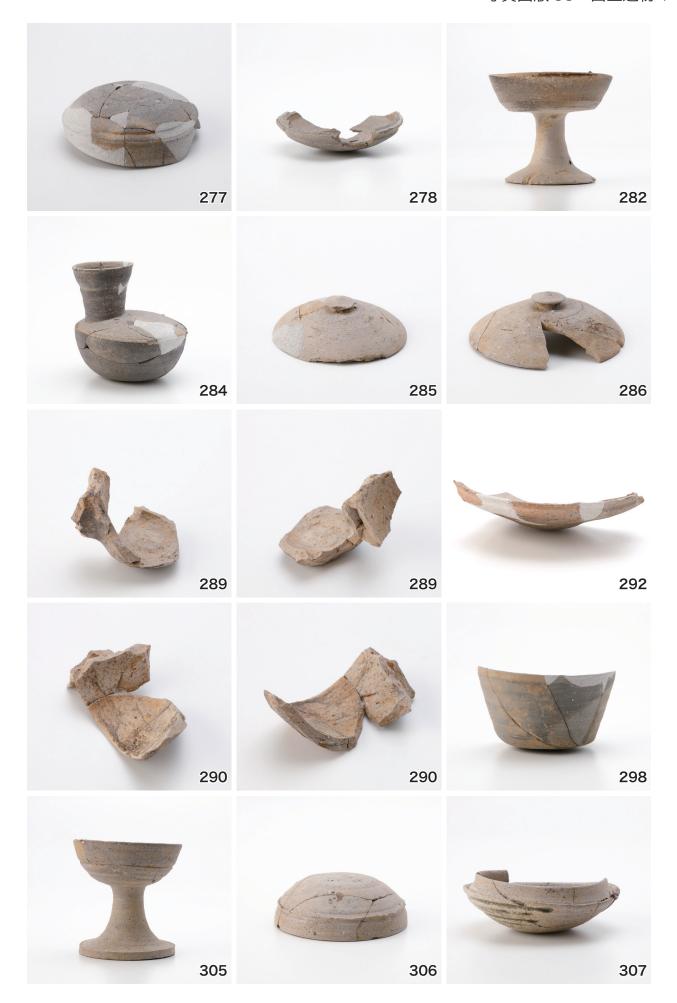


写真図版 30 出土遺物 1

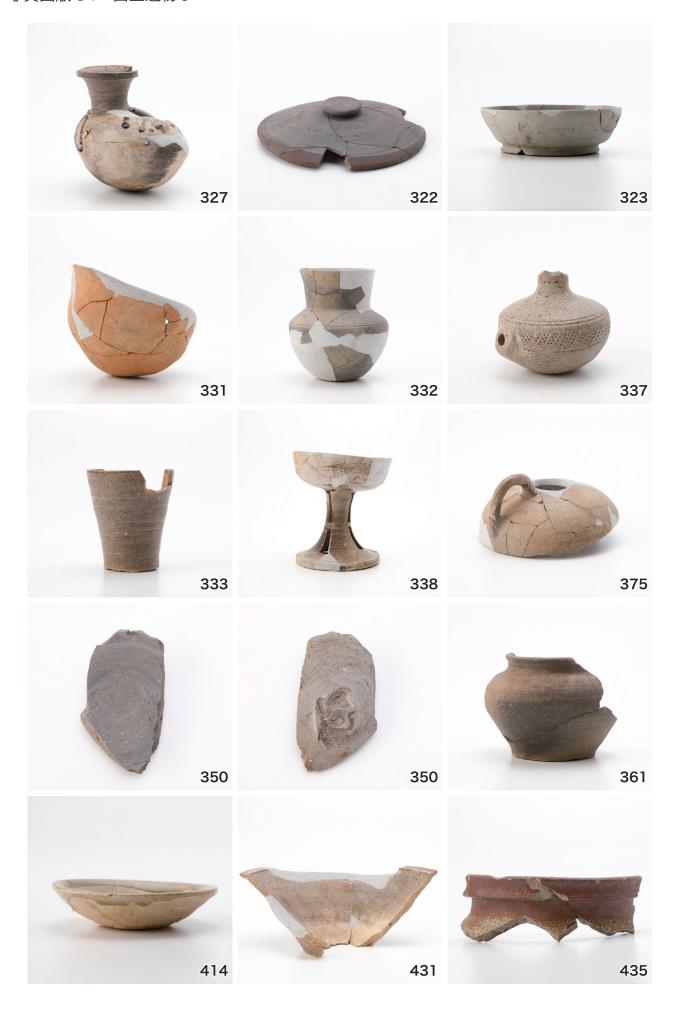




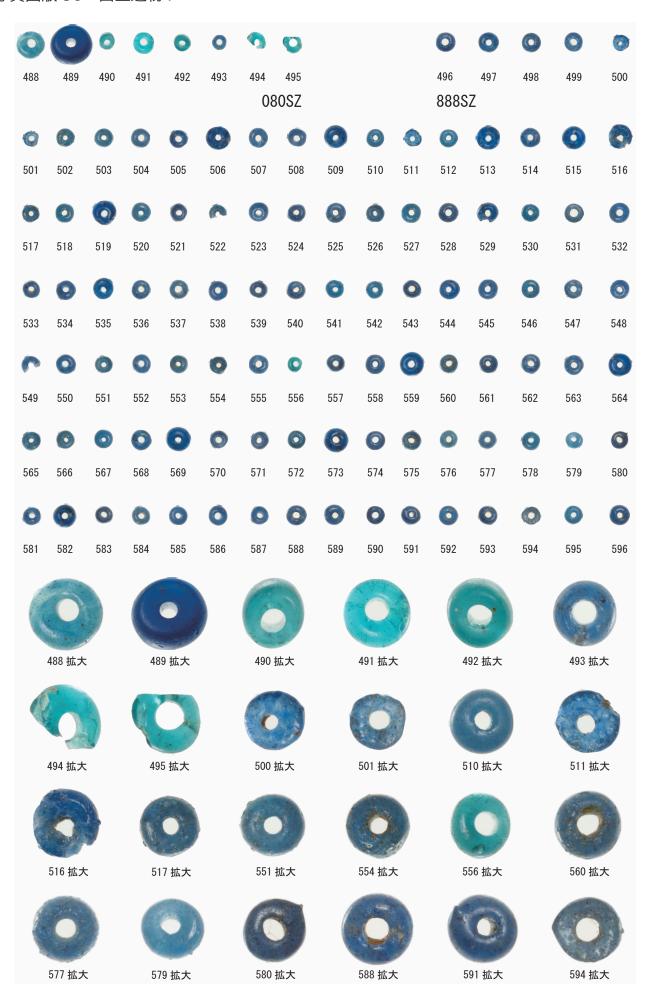




写真図版 34 出土遺物 5







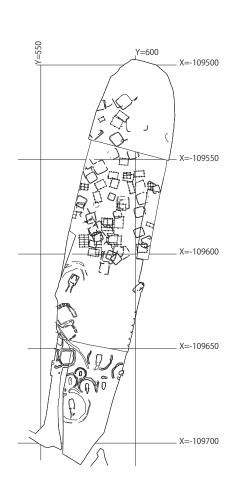
報告書抄録

									報告書抄錄
ふりがな	くるまづかいせき								
書名	車塚遺跡								
副書名									
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書								
シリーズ番号	第 190 集								
編著者名	池本正明・堀木真美子・川添和暁・鈴木恵介								
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター								
所在地	愛知県弥富市前ケ須町野方 802-2 № 0567-67-4161								
発行年月日	西暦 2015 年 3 月 31 日								
収蔵遺跡名	所在		コ- 市町村	-ド 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	原因
くるまづかいせき 車塚遺跡	おかざきしいる			510024	34° 0' 46"	137° 10' 23"	2008.5 ~ 2009.8	2000m²	道路改良工事 岡崎足助線
							2009.10 ~ 2010.3	4430m²	
	字車塚		232025				2010.5 ~ 2011.2 2011.6 ~	2300m²	
					世界測地	 系による	2011.6 ~	800㎡ (9530㎡)	
文書番号	発掘届出(20 埋セ 3 20.4.8・21 埋セ 54 21.8.21・22 埋セ 131 22.8.9・23 埋セ 4 23.4.4) 通知(20 教生 241 20.4.20・21 教生 1171 20.4.20・22 教生 2547 23.2.24・23 教生 100 23.4.8)								
	終了届・保管証 (20 埋セ 70 20.9.22・21 埋セ 122 22.3.5・22 埋セ 248 23.2.10・23 埋セ 69 23.8.22)								
	<u>監査結果通知(22 教生 726-1 22.12.24・23 教生 378 23.9.2・・・)</u>								
収蔵遺跡名	種別			主な遺構		主な遺物		特記事項	
<satornute 車塚遺跡</satornute 	集落・ 墳墓	縄文時代 弥生時代末~ 古墳時代初頭		炉跡 竪穴建物・方形周溝墓		縄文土器・石器 弥生土器			
		古墳時代後期 ~終末期		古墳		須恵器・金環・鉄製品			
		古代		掘立柱建物・溝・土坑		古代~中世陶器			
要約	縄文時代の遺構は断片的となる。弥生時代末〜古墳時代初頭では台地の北側縁辺部に竪穴建物、南側に方 形周溝墓が展開する。古墳時代では南側斜面を中心に後期〜終末期古墳が分布する。前段階の方形周溝墓 群と分布域を異にしており注目できる。古代では調査区の中央部を中心に分布する竪穴建物と掘立柱建物 で構成される居住域を確認している。								

車塚遺跡は岡崎市岩津町に所在する。地形的には矢作川の上位段丘で、北側が急峻な斜面、西と南側が緩斜面となり、これらに囲まれた中央が平坦面となっている。今回の調査区はこのうち中央の平坦面と南側の緩斜面に該当する。

調査の結果、縄文時代・弥生時代・古墳時代後期~奈良時代・中世以降の4時期の遺構が確認された。 遺構の多くは中央の平坦面に集中しており、この部分が奈良時代以前の居住域と考えられる。

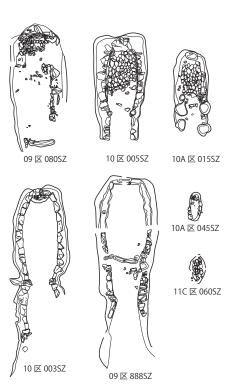
一方、南側の緩斜面は墓域となり、弥生時代の方形周溝墓と、古墳時代後期以降の横穴式石室を持つ 古墳8基と小石室3基が密集して確認されている。小石室の帰属時期が不明瞭だが、古墳・小石室は6 世紀後半~8世紀かけてほぼ継続するものと考えられる。なお、平坦面の居住域との関係も興味深いが、 同時期の遺構は調査区内では検出されていない。しかし、遺物は散見でき、調査区外に展開している可能性を残す。



遺構図 1:2,000



10A 区全景



石室図 1:200

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 190 集

車塚遺跡

2015年3月31日

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

印 刷 西濃印刷株式会社